

(仮称)厚別南・青葉地区義務教育学校新築検討協議会 議事概要

1 日時

令和6年(2024年)2月27日(火)10:00~11:20

2 場所

青葉中学校 3階視聴覚室

3 協議会次第及び説明・議事概要

(1) 開会あいさつ

(青葉中学校 中山校長)

これまで、予定よりも遅れてしまっておりご心配をおかけしていましたが、校舎・グラウンドの設計、スケジュールについて一定の目途がついたということで、本日の会の開催となった。

時間・人・お金など、様々な制約がある中で、よりよい学校を作っていくためにできることをしていきたいと考えている。

本日の説明で、気になるところはお質問いただき、今後の見通しを共有して進めていければと思う。

(2) 新築検討協議会の趣旨について

(学校配置マネジメント担当 日比野課長)

本日の新築検討協議会の開催にいたるまでも、当初予定よりスケジュールが遅くなってしまうことをお詫び申し上げます。

また、開校時期について、「最短で令和9年度開校」とこれまでご説明してきたところであるが、校舎の設計、施工に要する期間を具体的に検討した結果「令和11年度開校予定」と2年後ろ倒しにせざるを得ないという事となった。重ねてお詫び申し上げます。

令和5年8月に全体でご説明差し上げた後、11月~12月に委員の皆様へ個別に説明をし、そのご意見を受けて、学校配置案を作成した。

本日の会が正式な「新築検討協議会」という位置づけになり、皆様からご意見を頂戴した後、令和6年3月22日に広く地域の方に向けた住民説明会を行う予定。

(3) 新校舎の配置計画案及び今後のスケジュールについて

ア 設計案の概要

既存棟と増築棟の接続については、1か所の渡り廊下のみで接続する方法ではなく、1～3階のすべてのフロアで行き来ができる方法で進める目途がおおよそ立った。

令和5年11月～12月に個別にご説明した案から変更した主な内容としては次の3点。

①玄関ホールとグラウンド昇降口の位置

個別説明時の案で、玄関ホールの一角に設定していた「グラウンド昇降口」が狭いのではないかと、というご意見を受けて、各教室の配置等を調整し、現小学校にあるグラウンド昇降口をそのまま利用することで、グラウンド昇降口の面積を確保しつつ、玄関ホールの面積も拡大。

②増築棟へのティーチャーコーナーの整備

増築棟に、授業に備えた教員が数名待機することができるだけでなく、児童生徒の見守り、ちょっとした相談に応じるなどに使えるスペース（ティーチャーコーナー）を設定。道外の義務教育学校の視察の際に有効的に活用されていた機能であり、札幌市内の学校では初の採用。

③保健室の2階への配置及び相談室の追加

個別説明時の案では1階昇降口付近に配置されていた保健室について「一般教諭と養護教諭の連携が重要」という意見を踏まえ、職員室と同じ既存棟の2階に配置。

また、児童生徒の生活指導や、不登校対応などに使えるような面積は小さくても独立したスペースを多く欲しいというご意見を受け、2室追加配置して3室確保。

イ グラウンドへのアプローチについて

これまでの意見交換の中でいただいた、サイクリングロードをまたぐ歩道橋や地下道の設置の他、様々な案について、各担当部署とも協議して検討。

検討をした結果、極力距離を短くしつつも、一旦歩道に出て、グラウンド（現在の青葉中敷地）へ入る方法を想定。その上で、防犯カメラの設置や、学校、警察、厚別区などで構成されるスクールゾーン実行委員会での安全対策を検討することで安全面を補完したい。

ウ 事業スケジュールについて

令和6年度から7年度で、工事発注に向けた詳細な設計を行う実施設計を行い、あわせてサイクリングロードの一部の土地を学校敷地に所管換えする手続きや、条例で

定められた容積率を特例として緩和する建築審査会への許可申請を実施。

令和8年度、9年度に増築棟の建築工事、令和10年度に既存の小学校校舎の改修工事を行い、令和11年4月に義務教育学校として開校を予定。

その後も中学校校舎の解体、新たなグラウンドの整備工事が必要で、全ての工事が完了するまで7～8年の期間となる見込み。

ただし、工事現場での週休二日制の厳格化や、資材、燃料、人材不足とそれらに伴う物価上昇、その他、ラピダスや再開発事業など道内・市内の大型案件が活況であることによる影響により、工期の見通しが難しい状況であることについてご理解頂きたい。

エ 具体的な工事の進め方について

大きく4つのステップで工事が進む。1つ目のステップで増築棟が完成し、2つ目のステップで小学校の一部学年の教室などを完成した増築棟へ移転。増築棟に順繰り移動してもらい、無人になったところで改修工事を実施。3つ目のステップも同じく、2つ目のステップで改修を終えた部屋も利用しながら、順繰りと改修を進めていく。4つ目のステップで、増築工事から、この改修工事までの一連の新築工事が完了

(4) 質疑応答

質 疑	回 答
ア 安全対策や改築時の学校行事について	
現在の中学校敷地に作るメインのグラウンドまで職員室から目が届かないのをどう考えているか。	職員室でグラウンドの様子を見ることができるよう、グラウンドに防犯カメラの設置を検討している。
グラウンドから緊急避難する場合どうするのか。校舎とグラウンドが離れているという状況をよく踏まえて考えるべき。	安全面の配慮は今後も検討していく。
工事期間中の学校行事の実施など、子どもたちに負担をかけないように配慮してほしい。	工事期間中の行動制限について、やむを得ないところはあるものの、関係者を交えて、近隣の学校のグラウンドや体育館を使わせてもらえないか調整している。
イ 義務教育学校の建設について	

<p>用途地域による制限で、建設可能な面積が厳しいというお話だったが、先行する真駒内地区での義務教育学校でも同様の問題はあったのか？</p>	<p>真駒内地区で進めている義務教育学校の建築についても、本件と同様に第一種低層住居専用地域、戸建住環境保全地区の指定により容積率が60%に制限されているところ、本来の容積率では十分な建物の面積が確保できないため、許可を受けて対応している状況。</p>
<p>これまで学校を建設するにあたり用途地域の変更という事を具体的に検討したことはあるのか？</p> <p>今回さまざまな制約がある中で、教育委員会と建築設計部門が最大限努力したことは理解するが、校舎内のスペース不足が懸念される。</p> <p>現在検討中の義務教育学校についても、今後の義務教育学校でも、既存の敷地では建物の面積が十分確保できないということが続くのであれば、教育委員会だけでなく、財政局、都市局、まちづくり政策局などの関連部署を巻き込んで、義務教育学校として十分な面積の学校を建てるためのルールを札幌市として根本的に検討し直す必要があるのではないか。</p> <p>今回の学校を建築する前に、方針を見直すという時間はないのかもしれないが、今後の義務教育学校の建築に向けて、一石を投じる必要があるのではないか。</p>	<p>用途地域の変更という事では昨年度関連部署と協議した実績あり。その中で地域全体の用途地域の変更ではなく、ご説明した許可という方法で対応する方針となっている。</p> <p>当該地は、都市計画において住環境を保全すべき地区となっており、指定された制限を突破するような大きな建物を作ること、大きな影や騒音などが生じ、周りの住環境を阻害することにつながりかねない。</p> <p>より大きな、札幌市としての方針というところでは今後も検討すべき課題として認識。</p>
<p>今回の設計案などはどこまで確定しているものか。今後も住民説明会などでの意見を踏まえて変更できるのはいつ</p>	<p>建物全体の面積に影響があるような変更は今後難しいが、建物内部の配置などはR6年度からの実施設計で詳細を確定させ</p>

までなのか。	るのでご意見を反映させることができる部分もあるかと思う。
配置計画案等についての意見	
ア 義務教育学校について	
せっかく作って、何十年も使う校舎になるのだから、「札幌市にはこんな学校があるんだね」と誇れるような学校にして欲しい。	
色々検討していただいたというのは分かるが、工期はなるべく早く進められるようにして欲しい。教育委員会も担当が数年で変わるので、当初の担当の人に話したことがちゃんと引き継がれているのか心配。	
イ その他	
個別説明時の案からの変更ポイントなどの説明があつたが、これまでの意見交換などを踏まえて、色々な要望がどのような対応になったのか。できる、できないと結論が出たこと、これからも検討する事などがよく分からない。簡単なものでよいので、何か文書の形で確認させてほしい。	

(5) 新築検討委員会委員長あいさつ

(青葉中学校 中山校長)

今回、増築の工事が進むのは令和8、9年度、小学校の既存校舎の改修が令和10年度という事が示された。このスケジュールを踏まえ、小中学校でも具体的な対応について検討を進めたい。

学校のハードの面での協議会としては一区切りとなるが、今後もコミュニティスクールをどう進めるかという話やソフト面での協議は継続していく中で、ハード面でもご意見などあれば学校を窓口としていただければと考えている。地域の皆様の強い思いを極力受け止められるように進めていきたい。

安全対策、夏場の暑さ対策などの他、新しい学校をつくるということ子どもたちにどう伝えて、子どもたちからの声をどう反映させるのか、という事も合わせて考えたい。開校が遅れるというよりも、検討の時間をより長く確保できたととらえて、地域の皆様とも一緒に進めていきたいと考えているので、今後ともお力添えいただきたい。

以上